

F-24 「家事労働」概念の明確化とのよし

茨城大教育

酒井はるみ

主婦論争や家事労働の価値をめぐって、家事労働が問題にされたことは、近年一再ならずあつた。しかし、そこでは共通して、家事労働を日常生活における経験に基いてもので漠然としたえくいとて、概念の明確化に迫つたものはないか、た。

ところで、家事労働は家庭管理学（すなはち家庭経営学）にふりきは中核的な位置を占めくる。そこでは家事労働の合理化と、消費エネルギーの縮少、消費時間の短縮、物貯の有効利用という形で追求しようとしている。また家事労働へのアプローチも肉体労働と頭脳労働に分けるなど分析的な面もみられるが、全体的な認識は記述的な域を出でない。

家事労働は、その性質がまことにどの範囲を決めるとは困難だといわれてゐるが、社会の変動とともにあって、家事労働の内容や社会化などの変化を示してより、概念の明確化は一層必要になつてくる：とてあるう。

有地吉氏は家事労働を家庭管理と家事作業とにわざと考察してゐるが、これは家事労働の分析枠組としてさわめて有効なもののように思われる。

本報告では、これとふたえとて家事労働の構造を検討し、家事労働概念の明確化への一歩とした。